

期日：令和5年12月12日（火）9：30

会場：長井市置賜生涯学習プラザ

講話 『ともに学び、成長し合える喜びを実感できる学校づくりに向けて』

講師 長井市立長井北中学校 校長 船山 恒 様

はじめに

- ・明日への活力となるもの、生み出した時間でするものは何か考えてみる＝仕事だけの人にならない
- ・働き方改革は、その人の生き方やあり方を見直すこと  
⇒その結果、人としての魅力に磨きがかかり、心に余裕が生まれる（優しい言葉や温かいまなざし）
- ・学校は、子どもたちに夢や希望を与えるところでありたい

## 1 学校を取り巻く現状

### (1) 多様性への対応

#### ①学び方

- ・学校以外の多様な学びによる学びの補償  
例) ICT を活用した自宅や別室でのライブでの学習

#### ②制服や鞆、校則改正

- ・ランドセル以外の鞆 (R6 年度～長井市内小学校)
- ・ブレザー型の制服 (R6 年度～長井市内中学校)
- ・校則改正 (各中学校)

#### ③部活動

- ・部活動の任意加入 (R6 年度～西置賜地区中学校)
- ・土日の地域移行

### (2) 学校の存在意義

- ・日本の教育の良さが他国で認められている
- ・町や公共施設の使い方がきれいである ⇒日本の教育で培われてきたもの（清掃の時間など）
- ・不易と流行のバランスを取りながら、ともに学ぶ、成長し合える実感を持たせることが大切
- ・学校で学ぶことの魅力を伝え、子ども、保護者に興味をもってもらおう

### (3) 選択の時代へ

- ・正しい理解と適切な判断のための情報の提供
- ・色々な選択ができるようになったことで地域・家庭の格差が広がっている  
⇒格差を補うためにできることを考えていく必要がある  
私たちが知って伝えていく  
学校総動員で対応していく



## 2 学校づくりの参画に向けて

### (1) 次期教育振興基本計画（答申）に見られる目指す姿

- ◇2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成
- ◇ウェルビーイングの向上 ⇒ 感謝の気持ちをもつこと（充実感、幸福感を得やすくなる）
  - ・感謝の気持ちを書き留めておくことで感情の記憶が身につく、感謝の気持ちを抱きやすくなる
  - ・前向きに考えることができるようになり、困難を乗り越える力が身につく
- ◇誰一人取り残さず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進
- ◇主体的・対話的で深い学び
- ◇個別最適・協働的学びの一体的充実、多様な教育ニーズへの対応

◇ICT等の活用における学びの交流機会

◇個別最適・協働的学びの一体的充実、多様な教育ニーズへの対応

◇コミュニティスクールと地域学校協働活動の一体的推進

(2) 学校教育目標や重点を踏まえて

(3) 活用できる資源(人、物、事)の把握と発掘

・事務職員も一緒に考え、学校経営の一翼を担ってほしい(お金・人脈・情報)

(4) 総務・財務に通じる唯一の職員として

・今までの枠の中で考えてしまいがち

・社会通念上どうなのか、保護者の理解は得られるのか

→事務職員の見解から気づいたことを発言してほしい

・おごらず、謙虚であること(自信と過信がミスを誘発する)確認と点検

おわりに

「公教育は子どもたちを守り、希望を育て、将来につなげる極めて大切な職務

教育は子どもたちの幸せの生のためにある」

(元国立教育政策研究所長 浅田 和伸)

学校での仕事の先にあるものは、将来を担う子どもたちの育成、そこにある子どもたちの幸せ、社会の幸せ  
そこに思いをはせて、互いのできることを補完しあって仕事にあたっていきたい。

子どもたちのために仕事をしている  
ということを忘れず、謙虚さを大切に  
していきたい。

アンテナを高く張り、社会の変化を  
敏感に感じ取り、事務職員としてで  
きることを模索していきたい。

家庭、地域、財政等それぞれに繋がり  
を持っている事務職員の強みを活かし  
て私たちならではの視点で学校経営に  
参画していきたい。

少し先に楽しみを見つけて、仕事と  
プライベートのバランスを大事にし  
ていきたい。

---

<グループ討議> テーマ 「ともに」「かかわり」「つなぐ」事務職員として

ステージ別に分かれ、講話の感想や日頃の悩み、目指す姿に近づくための研修のしくみ方等について話し合った。